

実務経験のある教員等による授業科目一覧【柔道整復学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
関係法規	2	新地秀臣		
保健体育実技 1	1	木寺修作		
保健体育実技 2	1	深瀬好晴	木寺修作	
骨折総論	1	半田 光		
脱臼総論	1	桑野幸仁		
軟部組織損傷総論	1	田中 満		
軟部組織損傷各論	2	江島宏祐	半田 光	
固定法総論	2	田中 満	半田 光	
治療法総論	1	村岡太介		
基礎柔道整復学 1	1	半田 光		
基礎柔道整復学 2	1	田中 満		
頭部・体幹・上肢帯の骨折	1	桑野幸仁		
上腕の骨折	1	田中 満		
前腕・手部の骨折	1	桑野幸仁		
下肢の骨折	2	桑野幸仁		
上肢の脱臼	1	江島宏祐		
下肢の脱臼	1	江島宏祐		
臨床演習 1	1	半田 光	黒木文葉	
臨床演習 2	1	半田 光	社 由洋	
臨床演習 3	1	江島宏祐	社 由洋	
総合柔道整復学	9	桑野幸仁	社 由洋	田中 満
		半田 光	黒木文葉	味村吉浩
柔整実技 1（基礎固定）	2	社 由洋		
柔整実技 2（総合①）	1	半田 光		
柔整実技 3（総合②）	2	半田 光		
柔整実技 4（骨折）	1	桑野幸仁		
柔整実技 5（脱臼）	1	社 由洋		
柔整実技 6（軟損）	1	田中 満		
柔整実技 7（総合③）	14	桑野幸仁	社 由洋	田中 満
		半田 光	黒木文葉	味村吉浩
臨床実習 1	1	田中 満		
臨床実習 2	1	田中 満		
臨床実習 3	1	田中 満		
臨床実習 4	1	田中 満		
合 計	59			

科目区分	基礎分野	専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
	○										
授業科目名	科学1					担当者名		菅 典雄			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	科学の中でも主に社会科学（経済学）に着目し、資本主義経済の成り立ちにはじまり、柔道整復施術（整骨院）にかかわる技術やものの評価について学ぶ。										
成績評価	定期試験および追・再試験の結果を総合的に各鞍して評価する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	講義オリエンテーション
2	整骨院の動向と社会情勢
3	経済学概論、整骨院が地域医療をサポートする
4	経済学序論、経済学の誕生
5	資本主義経済システム、システムとは
6	経済循環システム、自由財と経済財
7	現代社会の特徴、貨幣経済社会、商品経済社会
8	公共財の特性、政府の役割
9	価格の決定、等価交換とは
10	価交換と価格の非対称性、カルビーの原理
11	市場と価格
12	価格形成、市場構造
13	価格の決定、等価の決定
14	整骨院における価格の決定
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
	○										
授業科目名	科学2					担当者名		井浦 ひとみ			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	科学の中でも主に社会科学（経済学）に着目し、資本主義経済の成り立ちにはじまり、柔道整復施術（整骨院）にかかわる技術やものの評価について学ぶ。										
成績評価	定期試験（期末試験）、授業態度、課題への取り組み等を総合的に評価。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	キャリアと豊かな仕事生活＞働くということ
2	キャリアと豊かな仕事生活＞仕事への取り組み方 ビジネスマナーの基本
3	ビジネスマナーの基本＞ビジネスマナーは社会人としての基本 職場でのコミュニケーション
4	ビジネスマナーの基本＞円滑なコミュニケーションのために 社会人としての身だしなみ
5	就業中のマナー＞入社から退社までの基本ルール
6	就業中のマナー＞仕事での態度や行動 感じのよい挨拶
7	就業中のマナー＞感じのよい挨拶 おじぎの基本とお客さまとの接し方
8	指示の受け方と報告 ・ 連絡 ・ 相談＞指示を受け話を聞くポイント
9	指示の受け方と報告 ・ 連絡 ・ 相談＞報告の仕方
10	指示の受け方と報告 ・ 連絡 ・ 相談＞中間報告 ・ 相談と忠告の受け方
11	マナーの模擬試験
12	話し方の基本＞印象がよくビジネスにふさわしい話し方 ビジネスの場にふさわしい言葉づかい
13	話し方の基本＞プレゼンテーションの基本と自己紹介
14	理解度チェック、試しにやってみよう！
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	保健体育理論1					担当者名		進藤 和代				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	「より健康で健やかな社会」を実現するために、スポーツ指導者として基礎知識をもった指導者を養成する。最終講義では健康スポーツセラピスト知識検定（初級）を受験して履修の成果を確認する。											
成績評価	定期試験、平常点（出席率、発表、提出物）を総合して評価を行う。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	健康スポーツセラピスト知識検定公式テキスト ストレックス実技編	水嶋昭彦	B A B ジャパン
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	ZERO100プロジェクトとは
2	生涯スポーツトレーナー
3	解剖学基礎
4	生理学基礎
5	発育・発達
6	呼吸・循環器、適応能力
7	健康スポーツセラピスト学
8	関係法規①
9	関係法規②
10	トレーナー学
11	ウェイトトレーニング
12	セルフトレーニング
13	スポーツ医学①
14	スポーツ医学②
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
	○										
授業科目名	保健体育理論2					担当者名		進藤 和代			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	「より健康で健やかな社会」を実現するために、スポーツ指導者として基本知識をもった指導者を養成する。最終講義では健康スポーツセラピスト知識検定（一般）を受験して履修の成果を確認する。										
成績評価	定期試験、平常点（出席率、発表、提出物）を総合して評価を行う。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	健康スポーツセラピスト知識検定公式テキスト ストレックス実技編	水嶋昭彦	BABジャパン
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	スポーツ医学①
2	スポーツ医学②
3	スポーツ医学③
4	スポーツ心理学①
5	スポーツ心理学②
6	スポーツ心理学③
7	スポーツ栄養学①
8	スポーツ栄養学②
9	スポーツ栄養学③
10	スポーツマネジメント学
11	ストレックス理論①
12	ストレックス理論②
13	ビジョントレーニング①
14	ビジョントレーニング②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	保健体育演習1					担当者名		深瀬 好晴、橋爪 崇				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	柔道の礼節・基本的で安全な動きを身につける。この授業では特に投げ技の基本を中心に実技を行う。											
成績評価	授業態度及び定期試験を総合して評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	柔道の由来・礼法・諸注意
2	礼法・前回り受身
3	前回り受身・横受身・後受身
4	背負投(乱取)・受身
5	背負投(乱取)・受身
6	浮落①
7	浮落②
8	背負投(投げの形)・受身
9	肩車(投げの形)・受身
10	大腰(乱取)・受身
11	乱取練習①
12	乱取練習②
13	試験諸注意
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	保健体育演習2					担当者名		木寺 修作、深瀬 好晴				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数		2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	柔道の礼節・基本的で安全な動きを身につける。この授業では特に投げ技の基本を中心に実技を行う。											
成績評価	授業態度及び定期試験を総合して評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	礼法・前回り受身
2	前回り受身・横受身・後受身
3	背負投(乱取)・受身
4	背負投(乱取)・受身
5	浮落復習①
6	浮落復習②
7	浮落復習③
8	背負投(投げの形)復習・受身
9	背負投(投げの形)復習・受身
10	肩車(投げの形)・受身
11	肩車(投げの形)・受身
12	大腰(乱取)・受身
13	乱取練習①
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
	○								
授業科目名	外国語				担当者名		工藤 和男		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	「人体の器官」では人体の機能をつかさどる各器官の英語表現を、「英作文演習」では医療現場で使われる英語表現を学習する。本学習により医療従事者にとっての英語表現の基礎を習得させる								
成績評価	定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する								
その他	(講義の都度各資料配布) 人体の器官 英作文演習								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	授業計画に基づいて資料を作成し都度生徒へ配布		
参考図書	看護英語の基本用語と表現	著者 円城康子/川越栄子	ジ・カルピュ社

回数	授 業 計 画
1	人体の器官1 (内臓器官) 医療現場での英語1 (自己紹介)
2	人体の器官2 (心臓) 医療現場での英語2 (病棟案内-1)
3	人体の器官3 (消化器官) 医療現場での英語3 (病棟案内-2)
4	人体の器官4 (膵臓の働き) 医療現場での英語4 (食事)
5	人体の器官5 (脳/耳) 医療現場での英語5 (排泄)
6	人体の器官6 (頭部と頸部) 医療現場での英語6 (入浴)
7	人体の器官7 (目) 医療現場での英語7 (睡眠)
8	人体の器官8 (皮膚の構造) 医療現場での英語8 (病歴聴取-健康上の習慣)
9	人体の器官9 (腎臓) 医療現場での英語9 (病歴聴取-排泄)
10	人体の器官10 (呼吸器系) 医療現場での英語10 (病歴聴取-手術、薬、病状)
11	人体の器官11 (口と歯) 医療現場での英語11 (血圧検査/体温検査)
12	人体の器官12 (脊髄/末梢神経) 医療現場での英語12 (血液検査/尿、便検査)
13	人体の器官13 (体循環/血管) 医療現場での英語13 (投薬)
14	人体の器官14 (全身の骨格) 医療現場での英語14 (注射、包帯)
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	解剖学1①（骨格系）					担当者名		田中 満				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	人体の構造と形態を中心に、機能および臨床との関連において教授する。ここでは、解剖学の総論に加えて特に肉眼で見ることができる巨視解剖学のうち、運動系として骨格系の講義を行う。											
成績評価	原則として中間試験、定期試験および追・再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖学 改訂第2版	岸清ほか著	医歯薬出版
参考図書	人体解剖学	藤田恒太郎	南江堂

回数	授 業 計 画
1	運動学系（骨格系－1 総論－骨の役割、骨の形状による分類、骨の構造、骨の発生と成長）
2	運動学系（骨格系－1 総論－骨表面の形状（性状）についての用語、骨の連結）
3	運動学系（骨格系－2 各論－脊柱）
4	運動学系（骨格系－2 各論－胸郭）
5	運動学系（骨格系－2 各論－上肢骨）
6	運動学系（骨格系－2 各論－上肢骨）
7	運動学系（骨格系－2 各論－上肢の関節）
8	中間試験
9	運動学系（骨格系－2 各論－下肢骨）
10	運動学系（骨格系－2 各論－下肢骨）
11	運動学系（骨格系－2 各論－下肢の関節）
12	運動学系（骨格系－2 各論－下肢の関節）
13	運動学系（骨格系－2 各論－頭蓋骨）
14	運動学系（骨格系－2 各論－顎関節、復習）
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
		○							
授業科目名	解剖学1②(筋系)				担当者名		田中 満		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	柔道整復師としての必要な解剖学の知識、ここでは筋肉について講義する。								
成績評価	定期試験および追・再試験の結果を総合的に各鞍して評価する。								
その他									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖学 改訂第2版	岸清ほか著	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	骨格筋について(形態と起始停止、作用、補助装置、神経)
2	上肢の筋①(上肢帯の筋～肩甲下筋)、上肢帯の筋②(烏口腕筋～肘筋)
3	下肢帯の筋①(腸腰筋～大腿方形筋)
4	下肢帯の筋②(縫工筋～外閉鎖筋)
5	頭部、頸部の筋
6	胸部、腹部の筋
7	背部の筋
8	上肢帯の筋③(円回内筋～方形回内筋)
9	上肢帯の筋④(腕橈骨筋から示指伸筋)
10	上肢帯の筋⑤(短母指外転筋～背側骨間筋)
11	下肢帯の筋③(大腿二頭筋～短腓骨筋)
12	下肢帯の筋④(下腿三頭筋～短指伸筋)
13	下肢帯の筋⑤(母指外転筋～背側骨間筋)
14	総復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	解剖学1③					担当者名		田中 満				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	人体の構造と形態を中心に、機能および臨床との関連において教授する。ここでは、解剖学の総論に加えて特に肉眼で見ることができる巨視解剖学のうち、運動系として骨格・筋系の講義を行う。											
成績評価	原則として中間試験、定期試験および追・再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖学 改訂第2版	岸清ほか著	医歯薬出版
参考図書	人体解剖学	藤田恒太郎	南江堂

回数	授 業 計 画
1	上肢骨・上肢の関節（p 36～42）上肢の筋（p 92～102）
2	上肢骨・上肢の関節（p 36～42）上肢の筋（p 92～102）
3	上肢骨・上肢の関節（p 36～42）上肢の筋（p 92～102）
4	上肢骨・上肢の関節（p 36～42）上肢の筋（p 92～102）
5	下肢骨・下肢の関節（p 46～55）下肢の筋（p 107～118）
6	下肢骨・下肢の関節（p 46～55）下肢の筋（p 107～118）
7	下肢骨・下肢の関節（p 46～55）下肢の筋（p 107～118）
8	中間試験
9	下肢骨・下肢の関節（p 46～55）下肢の筋（p 107～118）
10	下肢骨・下肢の関節（p 46～55）下肢の筋（p 107～118）
11	脊柱（p 28）・背部の筋（p 88～90）腹部の筋（p 85～88）
12	頭蓋（59）・頭部の筋、頸部の筋（p 76～81）
13	胸郭（p 33）・胸部の筋、呼吸筋（p 81～84）
14	脊柱（p 28）・背部の筋（p 88～90）
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
		○							
授業科目名	解剖学2①(脈管系)					担当者名	野代 悦生		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	人体の構造と形態を中心に機能および臨床との関連において教授する。ここでは、解剖学の総論に加えて、脈管系の講義を行う。								
成績評価	原則として定期試験および追・再試験の結果を総合的に勘案して評価する。								
その他									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖学 改訂第2版	全国柔道整復学校協会	医歯薬出版
参考図書	人体解剖学	藤田恒太郎	南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体解剖学概説(解剖学の意義、解剖学の分類)
2	解剖学用語、細胞
3	組 織、発 生
4	器官系統・人体の区分
5	脈管系総論 1. 体循環と肺循環 2. 血管の形態と構造
6	心臓 1. 位置と形態 2. 構造 3. 弁 4. 心臓壁の構造
7	心臓 5. 刺激伝導系 6. 心臓の脈管 7. 心臓の神経 8. 心膜
8	中間試験(30分)
9	心脈管系 1. 肺循環(肺循環) 2. 体循環(大循環)
10	動脈系
11	静脈系、
12	胎児循環
13	リンパ系 1. リンパ本幹 2. リンパ性器官
14	脾臓・胸腺
15	期末試験(60分)、試験終了後、解答および解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	解剖学2②（内臓系）					担当者名		豊野 孝				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	柔道整復師になるために必要な解剖学の基本知識として、ここでは内臓系に着目して講義を行う。											
成績評価	定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖学	全国柔道整復学校協会	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	消化器の種類と構造①（口、口腔腺、咽頭、食道）
2	消化器の種類と構造②（胃、小腸、大腸、肝臓）
3	消化器の種類と構造③（胆道、膵臓、腹膜）
4	呼吸器の働き・呼吸器①（外鼻、鼻腔と副鼻腔、咽頭）
5	呼吸器の働き・呼吸器②（喉頭、気管および気管支）
6	呼吸器の働き・呼吸器③（肺、胸膜、縦隔）
7	泌尿器の働き①（腎臓）
8	中間試験
9	泌尿器の働き②（尿管、膀胱、尿道）
10	生殖器の働き、男性生殖器（精巣と精巣上体、精管、精嚢）
11	生殖器の働き、男性生殖器（付属生殖器、陰茎と陰嚢）
12	生殖器の働き、女性生殖器（卵巣、卵管、子宮）
13	生殖器の働き、女性生殖器（膣、外陰部、会陰）
14	生殖器の働き、女性生殖器（卵巣と子宮粘膜の周期的変化、胎盤）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	解剖学3①					担当者名		野代 悦生				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	人体の構造と形態を中心に機能および臨床との関連において教授する。ここでは、解剖学の内分泌系、感覚器および体表解剖の骨格系の講義を行う。											
成績評価	原則として中間試験、定期試験および追・再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖学 改訂第2版	(社)全国柔道整復学校協会監修	医歯薬出版
参考図書	人体解剖学	藤田恒太郎	南江堂

回数	授 業 計 画
1	内分泌系、内分泌系の働き
2	内分泌器
3	感覚器、A 外皮
4	B 視覚器
5	C 聴覚器および平衡器
6	平衡覚路と聴覚路および平衡覚中枢と聴覚中枢
7	D 味覚器、臭覚器
8	中間テストおよび解説
9	体表解剖、A 体表区分
10	B 骨格系
11	C 筋 系
12	D 脈管系
13	E 神経系, F 目, 耳, 鼻, 口
14	G 外皮, H 生体計測
15	期末試験(60分)、試験終了後、解答および解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	解剖学3②					担当者名		豊野 孝				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	柔道整復師になるために必要な解剖学の基本知識として、ここでは神経系に着目して講義を行う。											
成績評価	定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖学 改訂第2版	全国柔道整復学校協会	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	神経系の区分と特徴・神経組織 (P217-220)
2	灰白質、白質と神経節、根・髄膜と脳脊髄液 (P221-223)
3	脳・各部の形態と機能 (P223-229)
4	脊髄・区分 (P230-233)
5	伝導路 (P233-236)
6	末梢神経・脳神経① (P238-241)
7	脳神経② (P241-245)
8	中間試験
9	脊髄神経後枝・頸神経叢・腕神経叢 (P245-247)
10	胸神経・腰神経・仙骨神経叢 (P248-252)
11	陰部神経・尾骨神経・デルマトーム (P252-255)
12	交感神経系 (PP256-257)
13	副交感神経系 (P258-259)
14	関連痛 (P259)
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
		○							
授業科目名	生理学1①(内臓)					担当者名	臼井 通彦		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	柔道整復師として必要な生理学の知識を丁寧に指導していく。国家試験の傾向も踏まえ、講義とともに問題演習も行い、知識を定着させる。								
成績評価	原則として各单元テスト、中間試験、期末試験の結果を総合的に評価する。								
その他									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	生理学(改訂第3版)	(公社)全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	消化と吸収①(消化器系の働き、運動と調整、消化液の分泌機序)
2	消化と吸収②(消化、吸収)
3	消化と吸収③(消化管ホルモン)
4	消化と吸収④(肝臓と胆道系)
5	栄養と代謝①(代謝)
6	栄養と代謝②(中間代謝、エネルギー代謝)
7	体温とその調節(体温、体温の日内変動、熱の産生、熱放散、体温調節、うつ熱と発熱、気候馴化)
8	中間試験
9	尿の生成と排泄①(腎の構造と機能、糸球体ろ過量)
10	尿の生成と排泄②(尿細管による再吸収)
11	尿の生成と排泄③(尿細管による分泌、尿の成分、排尿)
12	生殖①(性染色体とその異常、性分化、男性生殖器系の構成、精子形成、勃起と射精)
13	生殖②(女性生殖器の構成、月経周期)
14	生殖③(卵巣周期中のゴナドトロピンと卵巣、妊娠と分娩、乳汁分泌)
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	生理学1②（循環）					担当者名		五島 志織				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	柔道整復師として必要な生理学の知識を丁寧に指導していく。国家試験の傾向も踏まえ、講義とともに問題演習も行い、知識を定着させる。											
成績評価	原則として各単元テスト、中間試験、期末試験の結果を総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	生理学 改訂第3版	根来英雄ほか著	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	生理学の基礎（A生理学とは、B人体を構成する要素、Cホメオスタシス）
2	生理学の基礎（Dからだの科学的構成）
3	生理学の基礎（E細胞の機能的構造、F拡散、浸透、ろ過）
4	生理学の基礎（G受動輸送と能動輸送、Hエンドサイトーシスとエクソサイトーシス）
5	生理学の基礎（A血液の役割、B血液の組成）
6	血液の生理学（C免疫機能）
7	血液の生理学（D血液型、E血液の凝固）
8	中間試験
9	循環の生理学（A心臓の機能）
10	循環の生理学（A心臓の機能、B血管系、Cリンパ管系）
11	循環の生理学（D循環の調節、E局所循環、F脳脊髄液循環）
12	呼吸の生理学（A呼吸器の機能的構造、B換気）
13	呼吸の生理学（Cガス交換、D血液中の酸素の運搬、E血液中の二酸化炭素の運搬）
14	呼吸の生理学（F呼吸を調節する仕組み、G呼吸の異常、H特殊環境下の呼吸、I人工呼吸）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	生理学2①					担当者名		臼井 通彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	柔道整復師として必要な生理学の知識を丁寧に指導していく。国家試験の傾向も踏まえ、講義とともに問題演習も行い、知識を定着させる。											
成績評価	原則として各単元テスト、中間試験、期末試験の結果を総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	生理学（改訂第3版）	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	内分泌系の機能（A 内分泌腺B ホルモンの一般的性質C ホルモンの種類と作用）
2	内分泌系の機能（D 視床下部のホルモンE 下垂体のホルモンF 甲状腺のホルモン）
3	内分泌系の機能（G 副腎皮質のホルモンH 副腎髄質のホルモンI 膵臓のホルモン）
4	内分泌系の機能（J 精巣のホルモンK 卵巣のホルモン）
5	骨の生理学（A 骨の構造B 骨の形成と成長C 骨の再吸収と再形成D カルシウム代謝とリン代謝）
6	骨の生理学（E ビタミンD F 上皮小体ホルモンG カルシトニンH 骨の病気）
7	体液の生理学（A 体液の区分と水バランスB 体液のイオン組成C 体液の恒常性を維持する仕組み）
8	中間試験
9	筋肉の機能（A 筋肉の種類とその特徴B 骨格筋の構造C 筋収縮の仕組み）
10	筋肉の機能（D 筋細胞膜を興奮させるしくみE 骨格筋の収縮の仕方）
11	筋肉の機能（F 筋肉の長さや張力との関係G 筋収縮のエネルギー）
12	筋肉の機能（H 筋の熱発生I 筋電図）
13	筋肉の機能（J 平滑筋）
14	筋肉の機能（K 心筋）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	生理学2②					担当者名		五島 志織				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	柔道整復師として必要な生理学の知識を丁寧に指導していく。国家試験の傾向も踏まえ、講義とともに問題演習も行い、知識を定着させる。											
成績評価	原則として各単元テスト、中間試験、期末試験の結果を総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	生理学 改訂第3版	根来英雄ほか著	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	神経の基本的機能（A 神経細胞の形態 B 静止膜電位 C 活動電位 D 閾刺激）
2	神経の基本的機能（E 全か無かの法則 F 不応期 G イオンチャネル）
3	神経の基本的機能（H 興奮伝導 I 複合活動電位）
4	神経の基本的機能（J 興奮伝導）
5	神経系の機能（A 神経系の成り立ち）
6	神経系の機能（A 神経系の成り立ち）
7	神経系の機能（A 神経系の成り立ち）
8	中間試験
9	神経系の機能（A 神経系の成り立ち B 内臓機能の調節 C 内臓機能の視床下部による調節）
10	神経系の機能（C 内臓機能の視床下部による調節）
11	神経系の機能（D 姿勢と運動の調節 E 高次機能）
12	感覚の生理学（A 感覚の種類 B 感覚の一般的性質）
13	感覚の生理学（C 体性感覚 D 内臓感覚 E 嗅覚と味覚）
14	感覚の生理学（F 聴覚 G 視覚 H 前庭感覚）
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
		○							
授業科目名	運動学①					担当者名	社 由洋		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	運動学を中心に筋などを講義する。								
成績評価	定期試験および受講態度・理解度等を総合的に評価します。								
その他									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動学	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	PTOTから基礎から学ぶ運動学ノート	中島喜代彦	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	肩関節の構造・問題演習（P90-91）、肩の運動・講義（P93-97）
2	肘の構造・問題演習（P98-100）、肘と前腕運動に関わる筋・講義（P97-103）
3	手関節構造・問題演習（P104-109）、手関節運動に関わる筋・講義（P97-120）
4	上肢帯の運動・講義（P86-89）、上肢帯の構造・問題演習（P84-85）
5	下肢帯の構造・解剖講義（P122-124）
6	下肢の解剖学・問題演習（P124-126）、股関節の運動に関わる筋・講義（P132-137）
7	股関節に関わる筋②（133-17）、下肢の解剖学問題演習（P127-131）
8	中間試験
9	膝の構造・問題演習（P138-142）、膝の運動に関わる筋・講義（P143-149）、
10	足関節の構造・問題演習（P150-153）、足関節の運動学・講義（P154-164）
11	体幹の運動学・講義（P166-170）
12	頸部の運動・講義（P173-177）、頸部の解剖・問題演習（P171-172）
13	胸部と呼吸・問題演習（P184-185）、体幹の運動学・講義（P166-183）
14	腰部の構造と骨盤傾斜・講義咀嚼・講義（P186200）、腰部・骨盤・仙腸関節構造問題演習頭蓋骨解剖・問題演習（P184-185・192-193）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	運動学②					担当者名		田中 満				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	人体の構造と形態を中心に、機能および臨床との関連において教授する。ここでは、運動系の講義を行う。											
成績評価	原則として定期試験および追・再試験の結果を総合的に勘案して評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	解剖学 改訂第2版	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	P T・O T基礎から学ぶ運動学ノート	中島雅美中島喜代彦編 第2版	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	上肢の解剖学、上肢帯・肩関節・肘関節・前腕・手関節（p 72～105）
2	①の問題演習
3	下肢の解剖学、股関節・膝関節・足関節（p 122～160）
4	①③の問題演習
5	体幹の解剖学、頸部の運動、胸部の運動、骨盤部の運動（p 166～188）
6	①③⑤の問題演習
7	①③⑤の問題演習
8	①③⑤の問題演習
9	①③⑤の問題演習
10	①③⑤の問題演習
11	①③⑤の問題演習
12	①③⑤の問題演習
13	①③⑤の問題演習
14	①③⑤の問題演習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	運動生理学①					担当者名		宮崎 刀一				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	人間の運動に関する基本的な知識を習得する。主に力学や運動器の構造機能、姿勢、歩行、上肢や下肢の運動、脊柱の運動、下肢帯と下肢の運動、上肢帯と上肢の運動について学習する。											
成績評価	原則として中間試験、定期試験および追・再試験の結果を総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動学 第3版	斉藤宏ほか著	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	運動学の目的
2	運動の表し方
3	身体運動と力学①
4	身体運動と力学②
5	運動器の構造と機能①
6	運動器の構造と機能②
7	復習
8	中間試験
9	神経の構造と機能①
10	神経の構造と機能②
11	運動感覚①
12	運動感覚②
13	反射と随意運動①
14	反射と随意運動②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	運動生理学②					担当者名		宮崎 刀一				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	人間の運動に関する基本的な知識を習得する。主に力学や運動器の構造機能、姿勢、歩行、上肢や下肢の運動、脊柱の運動、下肢帯と下肢の運動、上肢帯と上肢の運動について学習する。											
成績評価	原則として中間試験、定期試験および追・再試験の結果を総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動学 第3版	斉藤宏ほか著	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	姿勢①
2	姿勢②
3	姿勢③
4	歩行①
5	歩行②
6	歩行③
7	運動発達と運動学習
8	中間試験
9	運動学習
10	生理学（高齢者の生理学）①
11	生理学（高齢者の生理学）②
12	生理学（スポーツ競技者の生理学）①
13	生理学（スポーツ競技者の生理学）②
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	病理学概論					担当者名		宮崎 刀一				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	病気の根底にある「細胞、組織、器官の形態的・機能的変化」をテーマとして扱う専門領域である。2年次の病理学講義では、病気の引き金となる異常な刺激に対する細胞や組織の基本的反応について、主に総論的に、あらゆる組織・臓器に共通する一般通則として論ずる。前期の「病理学Ⅰ」では、病理学の学問的枠組み、疫病一般の概説、退行性病変、進行性病変、循環障害、炎症について解説する。											
成績評価	中間試験の成績を20%、期末試験の成績を80%に換算し、その成績が60点以上で合格とする。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	病理学概論（改訂第3版）	関根一郎	医歯薬出版
参考図書	標準病理学（第4版）	坂本穆彦ら	医学書院

回数	授 業 計 画
1	疾病の一般（教科書p5～p8）、3. 細胞障害（退行性病変、代謝傷害）（1）（教科書p9～p12）
2	細胞障害（退行性病変、代謝傷害）（2）（教科書p12～p15）
3	細胞障害（退行性病変、代謝傷害）（3）（教科書p16～p19）
4	細胞障害（退行性病変、代謝傷害）（4）（教科書p20～p24）
5	細胞障害（退行性病変、代謝傷害）（5）（教科書p25～p27）、4. 循環傷害（1）（教科書p29～p33）
6	循環傷害（2）（教科書p34～p38）
7	中間試験（試験範囲：1～3まで）、4. 循環傷害（3）（教科書p39～p41）
8	循環傷害（4）（教科書p42～p43）
9	循環傷害（5）（教科書p44～p47）
10	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応（1）（教科書p49～p53）
11	進行性病変（病的増殖）と細胞・組織の適応（2）（教科書p53～p59）
12	炎症（1）（教科書p61～p65）
13	炎症（2）（教科書p66～p67）
14	炎症（3）（教科書p68～p70）
15	期末試験（試験範囲：1～6）および試験問題解説

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○			平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	リハビリテーション医学					担当者名		宇田津 明彦			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	リハビリテーション医学の広い知識を身につけ、技術の向上に努め、医療分野の一翼を担い、社会の要請に応えられる人材の育成を目的とする。そのために、リハビリテーションの概念と歴史、リハビリテーション医学の基礎医学、評価法と診断、治療、実際について学び、最後に福祉との関連を勉強する。										
成績評価	中間試験、定期試験および再試験の結果を総合的に勘案して評価する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	リハビリテーション医学（改訂第3版）	(社)全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	リハビリテーションの概念と歴史・リハビリテーション医学
2	リハビリテーション医学の基礎医学1（運動学と機能解剖）
3	リハビリテーション医学の基礎医学2（障害学・治療学）
4	リハビリテーション医学の評価と診断1（患者のとらえ方・身体計測・関節可動域測定法・中枢性運動障害の評価法・痙縮の評価法）
5	リハビリテーション医学の評価と診断2（小児運動発達の評価法1・協調性テスト・失認と失行の評価法・心理評価・日常生活動作の評価）
6	リハビリテーション医学の評価と診断3（電気生理学的診断法1・画像診断）・リハビリテーションの治療1（理学療法1）
7	リハビリテーションの治療2（理学療法2・作業療法1）
8	中間試験
9	リハビリテーションの治療3（作業療法2・補装具1）
10	リハビリテーションの治療4（補装具2・言語治療）
11	リハビリテーション医学と関連職種・リハビリテーションの実際1脳卒中・脊髄損傷
12	リハビリテーションの実際2（小児疾患・切断）
13	リハビリテーションの実際3（末梢神経損傷・関節リウマチ）
14	リハビリテーションの実際4（整形外科疾患・心疾患・呼吸器疾患）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	一般臨床医学Ⅰ（総論）					担当者名		宇田津 明彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	診察の基本と内科疾患を中心とした疾患の概念を理解し、柔道整復師が臨床現場で注意を払う必要があるものの症状および所見の理解を深める。											
成績評価	定期試験（中間試験および期末試験）、授業態度、課題への取り組み等を総合的に評価											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	一般臨床医学 改訂第3版	全国柔道整復学校協会監修	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	診察の意義、診察の進め方
2	医療面接
3	視診
4	打診
5	聴診
6	触診
7	生命徴候
8	中間試験
9	感覚検査
10	反射検査
11	代表的な臨床症状①
12	代表的な臨床症状②
13	代表的な臨床症状③
14	検査法
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科 昼間Ⅰ部			
授業科目名	一般臨床医学2（各論）					担当者名		宇田津 明彦				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	
単位数	2				授業時間数				30			
授業概要	解剖学、生理学、病理学等の知識をふまえ、個々の疾患を理解していく。											
成績評価	中間・期末試験、授業態度を総合的に評価。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	一般臨床医学 改定第3版	奈良信夫ほか	医歯薬出版
参考図書	病態生理で切った生理学	村川裕二	医学教育出版

回数	授 業 計 画
1	呼吸器疾患 1
2	呼吸器疾患 2
3	呼吸器疾患 3
4	循環器疾患 1
5	循環器疾患 2
6	循環器疾患 3
7	消化器疾患 1
8	中間試験 消化器疾患 2
9	消化器疾患 3
10	消化器疾患 4
11	内分泌代謝疾患 1
12	内分泌代謝疾患 2
13	内分泌代謝疾患 3
14	内分泌代謝疾患 4
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	外科学概論					担当者名		中島 秀彰				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	教科書を中心に臨床的内容も豊富に講義する											
成績評価	中間・期末考査成績による											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	外科学概論 改訂第4版	全国柔道整復学校協会 監修	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	損傷・熱傷
2	外科感染症
3	腫瘍、ショック
4	輸液、輸血
5	消毒、手術
6	麻酔、移植、免疫
7	出血、止血
8	中間試験
9	心肺蘇生
10	脳
11	呼吸器、頸部
12	心臓
13	乳腺、消化器
14	エコー 肝
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科 昼間Ⅰ部			
授業科目名	整形外科科学1					担当者名		中島 秀彰				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	臨床の現場で遭遇する個々の疾患に対して、これまで柔道整復実技1から同5までに習得した知識および技術を応用して対応する能力を身につける。 ここでは主に、柔道整復師が遭遇しやすい整形外科的疾患とその見分け方について学習する。											
成績評価	筆記および実技試験の成績、課題の提出状況および取り組み方を総合的に評価。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	整形外科科学 施術の適応と医用画像の理解	全国柔道整復学校協会監修 全国柔道整復学校協会監修	医歯薬出版 南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	運動器の基礎知識、診察法、検査法
2	検査法
3	整形外科科学治療法
4	骨・関節損傷総論
5	スポーツ整形外科
6	感染症疾患
7	骨腫瘍
8	中間試験
9	骨・関節疾患（非感染症）
10	全身性の骨・関節疾患
11	骨端症
12	四肢循環障害
13	神経・筋疾患
14	まとめ
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	整形外科科学2					担当者名		山田 真人				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
										30		
授業概要	臨床の現場で遭遇する個々の疾患に対して、これまで柔道整復実技1から同5までに習得した知識および技術を応用して対応する能力を身につける。 ここでは主に、柔道整復師が遭遇しやすい整形外科的疾患とその見分け方について学習する。											
成績評価	筆記および実技試験の成績、課題の提出状況および取り組み方を総合的に評価。											
その他												

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	整形外科科学 施術の適応と医用画像の理解	全国柔道整復学校協会監修 全国柔道整復学校協会監修	医歯薬出版 南江堂
参考図書			

回数	授業計画
1	身体部位別各論（体幹）
2	身体部位別各論（肩甲帯および上肢）①
3	身体部位別各論（肩甲帯および上肢）②
4	身体部位別各論（肩甲帯および上肢）③
5	身体部位別各論（骨盤および下肢の疾患）①
6	身体部位別各論（骨盤および下肢の疾患）②
7	身体部位別各論（骨盤および下肢の疾患）③
8	中間試験
9	画像診断の理解（X線）
10	画像診断の理解（Ct）
11	画像診断の理解（MRI）
12	画像診断の理解（MR）
13	画像診断の理解（超音波）
14	運動器系の画像
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	関係法規1					担当者名		新地 秀臣				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	柔道整復師として業務に従事する上で必要となる柔道整復師法をはじめ、医療福祉法規を理解する。											
成績評価	期末試験、授業態度、課題への取り組み等を総合的に評価。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	関係法規（改訂第2版）	前田和彦	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	序論、柔道整復師法の目的
2	序論、柔道整復師法の目的②
3	業、免許、資格要件、名簿
4	業、免許、資格要件、名簿②
5	☐ 各種申請手続き法
6	☐ 各種申請手続き法②
7	国家試験、業務
8	中間試験
9	同意、守秘義務
10	同意、守秘義務②
11	施術所の届出
12	☐ 施術所の届出②
13	☐ 施術所監督、広告の制限
14	“罰則、指定登録機関および指定試験機関試験”
15	☐ 期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
		○							
授業科目名	職業倫理と法律			担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
									30
授業概要	医療従事者になる為の職業倫理や臨床現場に出てからの社会的対応をグループワークを通して習得する。また、必要な法律や責任の重さを学習する。								
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。								
その他									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	川渕孝一・長尾敦彦・前田和彦	医歯薬出版
参考図書	関係法規 改訂第2版	前田和彦	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	A. 医療従事者の職業倫理
2	B. 柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応
3	C. 柔道整復師の社会的責任と対応 「患者への対応Ⅰ」
4	C. 柔道整復師の社会的責任と対応 「患者への対応Ⅱ」
5	C. 柔道整復師の社会的責任と対応 「患者への対応Ⅲ」
6	C. 柔道整復師の社会的責任と対応 「患者への対応Ⅳ」
7	C. 柔道整復師の社会的責任と対応 「患者への対応Ⅴ・まとめ」
8	中間試験
9	D. グループディスカッション事例①「施術におけるトリアージ」
10	D. グループディスカッション事例②「個人情報、認知症の対応」
11	D. グループディスカッション事例③「柔道整復師と整体師」
12	E. 医療における情報と責任
13	社会保険関係法規①「健康保険法」「国民健康保険法」
14	社会保険関係法規②「個人情報保護に関する法律」
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	衛生学公衆衛生学					担当者名		五島 志織				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	地域の医療・保健を担う柔道整復師として必要な健康の概念、感染対策、環境対策および食品衛生にかかる知識について概説するほか、衛生行政機構や医療保険の制度について学ぶ。											
成績評価	試験により評価する。											
その他												

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	衛生学・公衆衛生学 改訂第5版	鈴木庄亮ほか著	南江堂
参考図書			

回数	授業計画
1	衛生学とは、WHO憲章
2	疾患、習慣病、予防の分類
3	疾病予防、健康管理
4	感染症
5	消毒
6	環境衛生
7	食中毒、公害
8	中間試験
9	母子保健、学校保健
10	産業保健、成人保健
11	老人保健、高齢者保健
12	精神保健、地域保健
13	国際保健、衛生行政と保険医療制度
14	医療の倫理、安全の確保、疫学
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	医学史					担当者名		竹原 直道				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						15						
授業概要	医学の歴史の流れを概観することによって柔道整復師が医療の一翼を担う医療職であることの自覚を促し、それによって医の倫理感と衛生理念をもった柔道整復師像を確立させることを目的とする。											
成績評価	定期試験および受講態度、理解度等を総合的に評価します。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	教科書は特に指定せず、プリント中心に行う。		
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	医学史を学ぶ意味 古代医学 ヒポクラテスの誓い ギリシャ医学 ローマ医学
2	解剖学の歴史 わが国の解剖学の発展 インド・中国の医学
3	外科の夜明け 麻酔の歴史
4	消毒の歴史 感染症 性病
5	近代細菌学の発展 公衆衛生の歴史 近世日本医学の発展
6	近代日本医療制度の成立 近代日本医学を築いた人々
7	接骨医学史 医の倫理の歴史
8	試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	保健体育実技1					担当者名		木寺 修作				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	受身、礼法の習得。投の形（手技、腰技、足技）、投技の間合いを理解させるとともにこれを体得させる。それによって約束乱取りも習得させる。											
成績評価	出席状況、受講中の態度等を総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	受身、礼法、浮落、背負投
2	受身、浮腰、払腰
3	受身、肩車
4	受身、釣込腰、手技
5	受身、約束乱取
6	受身、送足払
7	受身、約束乱取
8	受身、約束乱取
9	受身、約束乱取
10	受身、約束乱取
11	受身、約束乱取
12	受身、約束乱取
13	受身、約束乱取
14	受身、約束乱取
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	保健体育実技2					担当者名		深瀬 好晴・木寺 修作				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	柔道教育は競技を目的とするものではなく柔道整復師の技術のバックボーンである手技や人格の形成、心身の鍛錬を目的とし、人としての振舞いの基本、礼儀作法の習得を最終目標とする。											
成績評価	・評価1／服装・態度 ・評価2／礼法 ・評価3／受身 ・評価／投の形 ・評価5／約束乱取											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	なし		
参考図書	イラスト柔道の形	品川区柔道会	五月書房

回数	授 業 計 画
1	①礼法 ②前方回転受身 投の形③手技復習 ⑥乱取等
2	①②③手技⑥各、復習
3	①②③手技⑥各、復習
4	①②④腰技⑥各、復習
5	①②④腰技⑥各、復習
6	①②④腰技⑥各、復習
7	①②⑤足技⑥各、復習
8	①②⑤足技⑥各、復習
9	①②⑤足技⑥各、復習
10	①②③手技④腰技⑤足技⑥各、復習
11	①②③手技④腰技⑤足技⑥各、復習
12	①②③手技④腰技⑤足技⑥各、復習
13	①②③手技④腰技⑤足技⑥各、復習
14	①②③手技④腰技⑤足技⑥各、復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	保健体育実技2					担当者名		木寺 修作(深瀬 達美)				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	“受身、礼法、投の形（手技、腰技、足技）、投技の間合いを理解させ、体得させる。”											
成績評価	出席状況、受講態度を総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
2	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
3	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
4	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
5	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
6	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
7	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
8	確認テスト
9	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
10	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
11	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
12	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
13	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
14	受身、礼法、手技、腰技、浮腰の復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	医療福祉制度					担当者名		田中 満				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						15						
授業概要	医療福祉に関する制度を学びその利点と問題点を明らかにし、今後の医療福祉制度の在り方を考える											
成績評価	定期試験および受講態度、理解度等を総合的に評価します。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	教科書は特に指定せず、個人資料で行う		
参考図書			

[illegible]

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
			○						
授業科目名	骨折総論					担当者名	半田 光		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	柔道整復師として必要な柔道整復理論の知識、ここでは骨折の総論について講義する。								
成績評価	定期試験および再試験など総合的に評価する。								
その他									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学・理論編（改訂第5版）	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	骨の損傷1（骨の形態と機能、骨損傷の概説、分類）
2	骨の損傷2（骨折の症状①）
3	骨の損傷3（骨折の症状②）
4	骨の損傷4（骨折の合併症①）
5	骨の損傷5（骨折の合併症②）
6	骨の損傷6（小児骨折の特徴）
7	骨の損傷7（高齢者骨折の特徴）
8	骨の損傷8（骨折の癒合日数）中間試験
9	骨の損傷9（骨折の治癒経過）
10	骨の損傷10（骨折の予後）
11	骨の損傷11（骨折の治癒に影響を与える因子）
12	骨の損傷12（骨折の整復法）
13	骨の損傷13（骨折の固定法）
14	総復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	脱臼総論					担当者名		桑野 幸仁				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	柔道整復師として必要な柔道整復理論、ここでは脱臼総論について講義する。											
成績評価	期末試験、再試験などを総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	関節の構造と形態①
2	関節の構造と形態②
3	関節損傷の概説
4	脱臼の定義と概説・発生頻度
5	脱臼の分類（関節の性状による分類）
6	脱臼の分類（程度による分類、関節面相互の位置による分類）
7	脱臼の分類（脱臼数による分類、脱臼部と交通の有無による分類）
8	中間試験
9	脱臼の分類（外力の働きによる分類・時期による分類・脱臼の経過による分類）
10	脱臼の分類（頻度と機序による分類）
11	脱臼の症状
12	脱臼の合併症
13	脱臼の整復障害、脱臼の予後
14	脱臼の整復法
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
			○						
授業科目名	軟部組織損傷総論					担当者名	田中 満		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	解剖学など基礎医学を基に、各部位の軟部組織損傷について、その発生機序、症状、検査法など、臨床に必要な知識を習得する。								
成績評価	定期試験および受講態度・理解度等を総合的に評価する。								
その他									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学 理論編	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	関節の損傷（捻挫、脱臼）A 関節の構造と形態
2	関節の損傷（捻挫、脱臼）A 関節の構造と形態、B 関節損傷の概要
3	関節の損傷（捻挫、脱臼）B 関節損傷の概要、C 関節損傷の分類、D 損傷される組織、E 鑑別診断を要する類症
4	関節の損傷（捻挫、脱臼）F 関節構成組織損傷 1・2
5	関節の損傷（捻挫、脱臼）F 関節構成組織損傷 3・4
6	筋の損傷 A B C
7	筋の損傷 D E F
8	中間試験
9	腱の損傷 A B
10	腱の損傷 C D E
11	末梢神経の損傷 A B
12	末梢神経の損傷 C
13	末梢神経の損傷 D E
14	血管系、リンパ系、皮膚の損傷（まとめ）
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	軟部組織損傷各論①					担当者名		江島 宏祐			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			
授業概要	柔道整復師が臨床現場で遭遇する軟部組織損傷についてその特徴を知り、病態、症状および徒手検査法を学び、鑑別できる能力を身につける。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	肩関節部の軟部組織損傷①
2	肩関節部の軟部組織損傷②
3	上腕部の軟部組織損傷①
4	上腕部の軟部組織損傷②
5	肘関節部の軟部組織損傷①
6	肘関節部の軟部組織損傷②
7	復習
8	中間試験
9	前腕部の軟部組織損傷①
10	前腕部の軟部組織損傷②
11	手関節部の軟部組織損傷①
12	手関節部の軟部組織損傷②
13	手指部の軟部組織損傷
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	軟部組織損傷各論②					担当者名		半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			
授業概要	柔道整復師が臨床現場で遭遇する軟部組織損傷についてその特徴を知り、病態、症状および徒手検査法を学び、鑑別できる能力を身につける。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	股関節部の軟部組織損傷①
2	股関節部の軟部組織損傷②
3	大腿部の軟部組織損傷①
4	大腿部の軟部組織損傷②
5	膝関節部の軟部組織損傷①
6	膝関節部の軟部組織損傷①
7	復習
8	中間試験
9	下腿部の軟部組織損傷①
10	下腿部の軟部組織損傷②
11	足部・趾部の軟部組織損傷①
12	足部・趾部の軟部組織損傷②
13	頭部・体幹の軟部組織損傷①
14	頭部・体幹の軟部組織損傷②
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成30年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部							
			○								
授業科目名	固定法総論①			担当者名		田中 満					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期 30	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	巻く相手及び部位に合わせ適切な包帯法を選択し対処できるように反復練習をおこなう。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	白衣着用。 身だしなみを整えておくこと。										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	包帯固定学	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	固定 機能的肢位（良肢位）
2	固定材料の種類
3	巻軸帯の巻き方と注意事項 巻軸帯の巻き戻し
4	基本包帯法（環行帯・螺旋帯・蛇行帯・折転帯）
5	基本包帯法（亀甲帯・麦穂帯）
6	指頭包か帯
7	指の麦穂帯 テープ固定
8	手関節の麦穂帯
9	前腕部の折転帯
10	前腕部の折転帯
11	肘関節の亀甲帯
12	肘関節の亀甲帯
13	肩関節の麦穂帯
14	肩関節の麦穂帯 投石帯
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成30年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部							
			○								
授業科目名	固定法総論②			担当者名		半田 光					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期 30	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	巻く相手および部位に合わせて適切な包帯と包帯法を選択し、対処できるように反復練習を行う。										
成績評価	定期試験および受講態度・理解度等を総合的に評価します。										
その他	白衣着用。 身だしなみを整えておくこと。										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	包帯固定学	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	胸部・背部の包帯
2	股関節部の包帯
3	大腿部の包帯
4	膝関節部の包帯 テープ固定
5	下腿部の包帯
6	下腿部の包帯
7	足関節部の包帯
8	足関節部の包帯
9	足趾部の包帯 テープ固定
10	デゾー包帯
11	デゾー包帯
12	デゾー包帯
13	ヴェルポー包帯 ジュール包帯
14	総復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	基礎柔道整復学1					担当者名		半田 光				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	臨床現場で必要となる知識および技術を向上させる。ここでは体表解剖を中心に触診を主とした知識および技能の習得を図る。											
成績評価	授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第5版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体の観察法
2	人体の観察法
3	基本診察法
4	診察概論
5	医療面接、医療面接演習
6	医療面接、医療面接演習
7	診察の順序、診察の演習
8	診察の順序、診察の演習
9	筆記と実技による中間試験
10	視診
11	問診、触診
12	打診、聴診
13	診察演習
14	診察演習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	基礎柔道整復学2					担当者名		田中 満			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	臨床現場で必要となる知識および技術を向上させる。ここでは体表解剖を中心に触診を主とした知識および技能の習得を図る。										
成績評価	授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体の観察法
2	人体の観察法
3	基本診察法
4	診察概論
5	医療面接、医療面接演習
6	医療面接、医療面接演習
7	診察の順序、診察の演習
8	診察の順序、診察の演習
9	筆記と実技による中間試験
10	視診
11	問診、触診
12	打診、聴診
13	診察演習
14	診察演習
15	期末試験
16	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	頭部・体幹・上肢帯の骨折					担当者名		桑野 幸仁			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数					授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	頭部・顔面部の解剖と機能
2	頭部・顔面の骨折
3	頸部・胸背部・腰部の解剖と機能
4	頸椎・胸椎・腰椎の骨折
5	胸骨骨折
6	肋骨骨折①
7	肋骨骨折①
8	中間試験
9	鎖骨・肩甲骨の解剖と機能
10	鎖骨骨折①
11	鎖骨骨折①
12	肩甲骨骨折①
13	肩甲骨骨折②
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	上腕の骨折					担当者名		田中 満				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。											
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	上腕部の解剖と機能
2	上腕骨近位部の骨折①
3	上腕骨近位部の骨折②
4	上腕骨近位部の骨折③
5	上腕骨幹部骨折①
6	上腕骨幹部骨折②
7	復習
8	中間試験
9	肘関節部の解剖と機能
10	上腕骨遠位部の骨折①
11	上腕骨遠位部の骨折②
12	上腕骨遠位部の骨折③
13	上腕骨遠位部の骨折④
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	前腕・手部の骨折					担当者名		桑野 幸仁				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。											
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	前腕部の解剖と機能
2	前腕骨近位部の骨折①
3	前腕骨近位部の骨折②
4	前腕部骨幹部骨折①
5	前腕部骨幹部骨折②
6	前腕遠位端部骨折①
7	前腕遠位端部骨折①
8	中間試験
9	手根骨骨折①
10	手根骨骨折②
11	中手骨骨折①
12	中手骨骨折②
13	指骨骨折①
14	指骨骨折②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	下肢の骨折①					担当者名		桑野 幸仁			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	下肢部の解剖・機能
2	下腿骨近位端部骨折①
3	下腿骨近位端部骨折②
4	下腿骨骨幹部骨折①
5	下腿骨骨幹部骨折②
6	下腿遠位端部骨折①
7	下腿遠位端部骨折②
8	中間試験
9	下腿遠位端部骨折③
10	足根骨骨折①
11	足根骨骨折②
12	中足骨骨折①
13	中足骨骨折②足趾骨折
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	下肢の骨折②					担当者名		桑野 幸仁			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	下肢の解剖と機能①
2	下肢の解剖と機能②
3	骨盤骨骨折①
4	骨盤骨骨折②
5	大腿骨近位端部骨折①
6	大腿骨近位端部骨折②
7	復習
8	中間試験
9	大腿骨近位端部骨折③
10	大腿骨骨幹部骨折
11	大腿骨遠位端部骨折①
12	大腿骨遠位端部骨折②
13	膝蓋骨骨折
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	上肢の脱臼					担当者名		江島 宏祐				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	「柔道整復学 - 理論編」に基づいて、脱臼学総論および各論を講義する。											
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第5版、改訂6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	脱臼学総論
2	鎖骨部の脱臼①
3	鎖骨部の脱臼②
4	肩関節脱臼①
5	肩関節脱臼②
6	肩関節脱臼③
7	復習
8	中間試験
9	肘関節脱臼①
10	肘関節脱臼②
11	手関節部の脱臼①
12	手関節部の脱臼②
13	手指部の脱臼①
14	手指部の脱臼②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	下肢の脱臼					担当者名		江島 宏祐			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	骨折の特徴を知り、病態、症状、整復法、固定法を学ぶ。総論で学習したことを基礎として対処できる考え方を教授する。										
成績評価	確認試験、定期試験、出席、授業態度などを総合的に評価する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	下肢の解剖と機能
2	股関節の脱臼①
3	股関節の脱臼②
4	膝蓋骨脱臼①
5	膝蓋骨脱臼②
6	膝関節脱臼(それに伴う複合靱帯)
7	復習
8	中間試験
9	足部の脱臼①
10	足部の脱臼②
11	シヨパール関節脱臼、リスフラン関節脱臼
12	足趾部脱臼
13	復習1
14	復習2
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度		昼間Ⅰ部			
授業科目名	臨床演習1					担当者名		半田 光・黒木 文葉			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	柔道整復師の臨床現場で遭遇する機会の多い疾患を中心に、その診察法および処置法について実技を通して知識および技能を習得する。										
成績評価	期末試験、授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-実技編	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	柔道整復師の業務
2	骨折の施術①
3	骨折の施術②
4	骨折の施術③
5	脱臼の施術①
6	脱臼の施術②
7	脱臼の施術③
8	軟部組織損傷の施術（打撲）①
9	軟部組織損傷の施術（打撲）②
10	軟部組織損傷の施術（挫傷）①
11	軟部組織損傷の施術（挫傷）②
12	軟部組織損傷の施術（捻挫）①
13	軟部組織損傷の施術（捻挫）②
14	総復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
			○						
授業科目名	臨床演習2			担当者名	半田 光・社 由洋				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期
								30	
授業概要	柔道整復師の臨床現場で必要となる、診察法及び検査法について知識および技能を習得する。 主にROM・MMTの計測、各種徒手検査の評価・実施について学習する。								
成績評価	原則として小テスト、定期試験および追・再試験の結果を総合的に評価する。								
その他									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	各種徒手検査法①(復習)
2	各種徒手検査法②
3	各種徒手検査法③
4	反射検査法 理論 (深部腱・病的反射)
5	反射検査法② 実技 (深部腱・病的反射)
6	ROM測定① (上肢・体幹)
7	ROM測定②(下肢)
8	反射検査法・ROM 総復習
9	MMT測定①(上肢・体幹)
10	MMT測定②(下肢)
11	復習
12	救急患者への対応①
13	救急患者への対応②
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	臨床演習3					担当者名		江島 宏祐・社 由洋			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	柔道整復師の臨床現場で必要となる、診察法および後療法について知識および技能を習得する。 主にレントゲン画像の見方や上肢や下肢のストレッチ法を学習する。										
成績評価	原則として小テスト、定期試験および追・再試験の結果を総合的に評価する。										
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	施術録の記載
2	施術録の記載②
3	レントゲン画像読影
4	レントゲン画像読影②
5	レントゲン画像読影③
6	後療法の種類と特徴① (物理療法)
7	後療法の種類と特徴② (物理療法)
8	後療法の種類と特徴③ (ストレッチ)
9	後療法の種類と特徴④ (ストレッチ)
10	後療法の種類と特徴⑤(トレーニング)
11	後療法の種類と特徴⑥(トレーニング)
12	実技練習
13	実技練習②
14	実技練習③
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	総合柔道整復学①					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
教科書	柔道整復学-実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体の観察法
2	医療面接、医療面接演習
3	診察の順序、診察の演習
4	頭部および顔面部の診察
5	頸背部の触診 頸部の診察
6	背部の診察
7	肩部・腰部の触診
8	中間試験
9	肩部の診察
10	上腕部・肘部の触診
11	前腕部・手部の触診 前腕部の診察
12	手部の診察
13	手指部・胸部の触診
14	前腕部・手部の触診 前腕部の診察
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	総合柔道整復学②					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
教科書	柔道整復学-実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	股部の診察
2	殿部の診察
3	大腿部の診察
4	膝部の診察①
5	膝部の診察②
6	下腿部の診察
7	足部の診察 足指部の診察
8	中間試験
9	診察シミュレーション①
10	診察シミュレーション②
11	診察シミュレーション③
12	鑑別診断の手法①
13	鑑別診断の手法②
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	総合柔道整復学③					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
教科書	柔道整復学-実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	徒手検査法の種類①
2	徒手検査法の種類②
3	徒手検査法①
4	徒手検査法②
5	徒手検査法③
6	徒手検査法④
7	徒手検査 演習
8	中間試験
9	頸部の検査法演習
10	肩部の検査法演習
11	肘部の検査法演習
12	手部の検査法演習
13	総合演習①
14	総合演習②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	総合柔道整復学④					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
教科書	柔道整復学-実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	徒手検査法の種類①
2	徒手検査法の種類②
3	徒手検査法①
4	徒手検査法②
5	徒手検査法③
6	徒手検査法④
7	徒手検査 演習
8	中間試験
9	腰部の検査法演習
10	股部の検査法演習
11	膝部の検査法演習
12	下腿部の検査法演習
13	足部の検査法演習
14	総合演習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	総合柔道整復学⑤					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
教科書	柔道整復学-実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	鎖骨骨折の考え方と整復法
2	肩鎖関節脱臼の考え方と整復法
3	上腕骨外科頸骨折の考え方と整復法
4	橈骨遠位端部骨折の考え方と整復法 小児の橈骨遠位骨端線離開の考え方と整復法
5	手指骨骨折の考え方と整復法
6	母指MP関節脱臼の考え方と整復法 手指PIP関節脱臼の考え方と整復法
7	肩関節脱臼の考え方と整復法
8	中間試験
9	肘関節脱臼の考え方と整復法
10	股関節脱臼の考え方と整復法
11	膝蓋骨脱臼の考え方と整復法
12	膝蓋骨骨折の考え方と整復法 下腿骨骨幹部骨折の考え方と整復法
13	足指骨骨折の考え方と整復法 足関節果部骨折の考え方と整復法
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	総合柔道整復学⑥					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	柔道整復学総論を学習する。 範囲は以下の通りとする。 診察～外傷予防										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
教科書	柔道整復学-実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	医療面接の方法論
2	医療面接演習
3	診察の進め方
4	診察の進め方演習
5	鑑別診断の方法
6	鑑別診断演習 1
7	鑑別診断演習 2
8	中間試験
9	徒手整復の種類と方法論
10	徒手整復演習①
11	徒手整復演習②
12	頭部背部腰部軟部組織損傷に対する診察法と処置法
13	上肢の軟部組織損傷に対する診察法と処置法
14	下肢の軟部組織損傷に対する診察法と処置法
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	総合柔道整復学⑦					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	教科書を中心に臨床的内容も豊富に講義する。										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
教科書	柔道整復学-実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	診察法
2	治療計画 施術録について
3	骨折の整復法
4	脱臼の整復法
5	軟部組織損傷の治療法
6	固定法①
7	固定法②
8	中間試験
9	後療法① 手技療法
10	後療法② 運動療法
11	後療法③ 物理療法
12	指導管理
13	外傷の予防①
14	外傷の予防②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校						
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部						
授業科目名	総合柔道整復学⑧					担当者名							
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次			
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
										30			
授業概要	教科書を中心に臨床的内容も豊富に講義する。												
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。												
その他													

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	整形外科学	(社) 全国柔道整復学校協会	医歯薬出版
参考図書	標準整形外科学	監修 国分正一 ほか	医学書院

回数	授 業 計 画
1	運動器の基礎知識
2	整形外科診察法
3	整形外科検査法
4	整形外科的治療法
5	骨関節損傷総論
6	疾患別各論①
7	疾患別各論②
8	中間試験
9	疾患別各論 神経筋疾患
10	身体部位各論①
11	身体部位各論②
12	身体部位各論③
13	身体部位各論④
14	身体部位各論⑤
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	総合柔道整復学⑨					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数		1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	""人間の運動に関する基本的な知識を習得する。主に力学や運動器の構造機能、姿勢、歩行、上肢や下肢の運動、脊柱の運動、下肢帯と下肢の運動、上肢帯と上肢の運動について学習する。""										
成績評価	中間テスト、期末テストを評価とする。 又、出席状況、講義内確認テストの結果も加味する。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動学 第3版	斉藤宏ほか著	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	運動学の定義
2	上肢帯 ・ 上肢の構造 総論 上肢帯 肩関節
3	肘関節の運動 筋 手関節の運動
4	股関節の運動 膝関節の運動
5	体幹の運動
6	呼吸筋
7	神経
8	中間試験
9	反射と随意運動
10	小脳・機能
11	姿勢 歩行 運動発達 運動学習①
12	姿勢 歩行 運動発達 運動学習②
13	総演習
14	総演習②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技（基礎固定）①					担当者名		社 由洋			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						30					
授業概要	様々な固定法、被覆法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	包帯固定学	(公社)全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	手関節麦穂帯・前腕の折転帯(速度・機能性・美しさを重視した練習)
2	肘亀甲帯・肩の麦穂帯(速度・機能性・美しさを重視した練習)
3	指麦穂帯・指頭包か帯(速度・機能性・美しさを重視した練習)
4	デゾー包帯法順巻き(速度・機能性・美しさを重視した練習)、逆巻き練習
5	デゾー包帯法逆巻き練習
6	ヴェルポー包帯順巻き(速度・機能性・美しさを重視した練習)、逆巻き練習
7	ジュール包帯法(速度・機能性・美しさを重視した練習)、逆巻き練習
8	足の三節帯順巻き(速度・機能性・美しさを重視した練習)、逆巻き練習
9	下腿折転帯(速度・機能性・美しさを重視した練習)、逆巻き練習
10	膝亀甲帯(速度・機能性・美しさを重視した練習)
11	大腿折転帯(速度・機能性・美しさを重視した練習)
12	股関節麦穂帯(速度・機能性・美しさを重視した練習)
13	胸背部十字体(速度・機能性・美しさを重視した練習)
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技（基礎固定）②					担当者名		社 由洋				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	様々な固定法、被覆法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。											
成績評価	定期試験および受講態度											
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	包帯固定学	(公社)全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	胸部・背部の包帯
2	股関節部の包帯 大腿部の包帯
3	膝関節部の包帯
4	下腿部の包帯
5	膝関節部の包帯 テープ固定
6	足関節部の包帯 テープ固定
7	シーネ作成①
8	シーネ作成②
9	シーネを当てて、前腕部・肘関節・肩関節の包帯
10	シーネを当てて、足関節部・下腿部の包帯
11	冠名包帯法①
12	冠名包帯法②
13	復習
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	柔整実技2					担当者名		半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	柔道整復師として必要な技能・知識を中心に授業を行う。										
成績評価	定期試験および受講態度・理解度等を総合的に評価します。										
その他	白衣着用。 身だしなみを整えておくこと。										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	包帯固定学	全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	合わせ包帯法
2	多頭帯（並列帯）
3	三角巾による提肘①
4	三角巾による提肘②
5	晒による固定
6	厚紙副子・スダレ副子
7	厚紙副子・スダレ副子の応用
8	金属副子（クラーメル金属副子）の応用
9	復習
10	テーピングの目的・特徴・原理
11	テーピングの種類
12	足部のテーピング（基本）①
13	足部のテーピング（基本）②
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科					
授業科目名	柔整実技③(総合②)					担当者名		半田 光				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			2		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								60				
授業概要	柔道整復師の臨床現場で遭遇する機会の多い疾患を中心に、その診察法および処置法について実技を通して知識および技能を習得する。											
成績評価	期末試験、授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。											
その他												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-実技編	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、患者さんとの向き合い方
2	体表解剖、触診（上肢、下肢）、バイタルサイン
3	腱板損傷 検査法、上腕二頭筋腱損傷 検査法
4	腱板損傷 検査法、上腕二頭筋腱損傷 検査法
5	ハムストリングス・大腿四頭筋・下腿三頭筋肉離れ損傷 検査法
6	ハムストリングス・大腿四頭筋・下腿三頭筋肉離れ損傷 検査法
7	膝関節損傷 側副靱帯損傷 検査法
8	膝関節損傷 側副靱帯損傷 検査法
9	半月板／十字靱帯損傷 検査法
10	半月板／十字靱帯損傷 検査法
11	足関節外側側副靱帯損傷 検査法
12	足関節外側側副靱帯損傷 検査法
13	本番形式練習
14	本番形式練習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度		柔道整復学科			
授業科目名	柔整実技③(総合②)					担当者名		半田 光			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			2		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			
授業概要	柔道整復師の臨床現場で遭遇する機会の多い疾患を中心に、その診察法および処置法について実技を通して知識および技能を習得する。										
成績評価	期末試験、授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。										
その他											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学-実技編	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	鎖骨骨折 定型的整復法
2	鎖骨骨折 定型的整復法
3	肩鎖関節脱臼整復法
4	肩鎖関節脱臼整復法
5	肩関節脱臼整復法
6	肩関節脱臼整復法
7	上腕骨外科頸部骨折整復法
8	上腕骨外科頸部骨折整復法
9	肘関節後方脱臼整復法
10	肘関節後方脱臼整復法
11	コーレス骨折整復法、肘内障整復法
12	コーレス骨折整復法、肘内障整復法
13	本番形式練習
14	本番形式練習
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
				○						
授業科目名	柔整実技4（骨折）				担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期 後期
										30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。									
成績評価	定期試験および受講態度									
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション、骨折総論・触診
2	鎖骨骨折整復
3	鎖骨骨折固定
4	上腕骨外科頸骨折整復
5	上腕骨外科頸骨折固定
6	コーレス骨折整復①
7	コーレス骨折整復②
8	コーレス骨折固定
9	肋骨骨折固定
10	第5中手骨骨折固定
11	下腿骨骨幹部骨折固定
12	復習
13	プレ試験
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技5（脱臼）					担当者名						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
											30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。											
成績評価	定期試験および受講態度											
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション・脱臼総論・触診
2	肩鎖関節脱臼整復
3	肩鎖関節脱臼固定
4	肩関節脱臼整復①
5	肩関節脱臼整復②
6	肩関節脱臼固定
7	肘関節脱臼整復
8	肘関節脱臼固定
9	肘内障整復
10	第2指PIP関節脱臼固定
11	復習
12	復習
13	プレ試験
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技6（軟損）					担当者名						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
											30	
授業概要	様々な検査法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。											
成績評価	定期試験および受講態度											
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	(公社) 全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション・軟部組織損傷総論・触診
2	肩腱板損傷検査法
3	上腕二頭筋長頭腱損傷検査法
4	ハムストリングス損傷(肉離れ)検査法
5	大腿四頭筋打撲検査法
6	膝関節側副靱帯損傷検査法
7	膝関節十字靱帯損傷検査法
8	膝関節半月板損傷検査法
9	下腿三頭筋損傷(肉離れ)検査法
10	足関節外側靱帯損傷検査法
11	口頭試問対策(鑑別・合併症)
12	復習
13	プレ試験
14	復習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7①（総合）					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	人体の観察法
2	医療面接、医療面接演習
3	診察の順序、診察の演習
4	頭部および顔面部の診察
5	頸背部の触診 頸部の診察 背部の診察
6	肩部・腰部の触診
7	腰部の診察
8	肩部の診察
9	上腕部・肘部の触診
10	上腕部の診察 肘部の診察
11	前腕部・手部の触診診察
12	手指部・胸部の触診
13	手指部の診察
14	胸部の診察
15	期末試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部							
			○								
授業科目名	柔整実技7②（総合）					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	股部の診察
2	殿部の診察
3	大腿部の診察
4	膝部の診察
5	下腿部の診察
6	足部の診察
7	足指部の診察
8	足指部の診察
9	診察シミュレーション①
10	診察シミュレーション②
11	鑑別診断の手法①
12	鑑別診断の手法②
13	徒手検査法①
14	徒手検査法②
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7③（総合）					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										30	
授業概要	様々な整復法、固定法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	徒手検査法の種類
2	頸部の検査法
3	頸部の検査法演習
4	肩部の検査法
5	肩部の検査法演習
6	肘部の検査法
7	肘部の検査法演習
8	手部の検査法
9	手部の検査法演習
10	股部の検査法と演習
11	膝部の検査法
12	膝部の検査法演習
13	足部の検査法
14	足部の検査法演習
15	期末試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7④（総合）					担当者名						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
											30	
授業概要	様々な整復法、固定法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。											
成績評価	定期試験および受講態度											
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	徒手検査法の種類
2	頸部の関節可動域計測
3	頸部の関節可動域計測実技
4	肩関節の関節可動域計測
5	肩関節の関節可動域計測実技
6	肘関節の関節可動域計測
7	肘関節の関節可動域計測実技
8	前腕の関節可動域計測
9	前腕の関節可動域計測実技
10	手関節の関節可動域計測
11	手関節の関節可動域計測実技
12	手指関節の関節可動域計測
13	手指関節の関節可動域計測実技
14	体幹の関節可動域計測
15	体幹の関節可動域計測実技

科目区分	基礎分野	専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
				○						
授業科目名	柔整実技7⑤（総合）				担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期 後期
										30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。									
成績評価	定期試験および受講態度									
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	股関節の関節可動域計測
2	股関節の関節可動域計測実技
3	膝関節の関節可動域計測
4	膝関節の関節可動域計測実技
5	足関節の関節可動域計測
6	足関節の関節可動域計測実技
7	足指関節の関節可動域計測
8	足指関節の関節可動域計測実技
9	頸椎疾患を想定した関節可動域の計測
10	胸腰椎疾患を想定した関節可動域の計測
11	肩部疾患を想定した関節可動域の計測
12	足部疾患を想定した関節可動域の計測
13	総合演習①
14	総合演習②
15	総合演習③

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度		柔道整復学科		昼間Ⅰ部	
授業科目名	柔整実技7⑥（総合）					担当者名						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
											30	
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。											
成績評価	定期試験および受講態度											
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	徒手筋力検査法概論
2	徒手筋力検査法の方法論①
3	徒手筋力検査法の方法論②
4	頸部の徒手筋力検査法
5	頸部の徒手筋力検査法実技
6	肩部の徒手筋力検査法
7	肩部の徒手筋力検査法実技
8	肘部の徒手筋力検査法
9	肘部の徒手筋力検査法実技
10	前腕部の徒手筋力検査法
11	前腕部の徒手筋力検査法実技
12	手部の徒手筋力検査法
13	手部の徒手筋力検査法実技
14	指部の徒手筋力検査法
15	指部の徒手筋力検査法実技

科目区分	基礎分野	専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
				○						
授業科目名	柔整実技7⑦（総合）				担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期 後期
										30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。									
成績評価	定期試験および受講態度									
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	体幹の徒手筋力検査法
2	体幹の徒手筋力検査法実技
3	股部の徒手筋力検査法
4	股部の徒手筋力検査法実技
5	膝部の徒手筋力検査法
6	膝部の徒手筋力検査法実技
7	足部の徒手筋力検査法
8	足部の徒手筋力検査法実技
9	足指部の徒手筋力検査法
10	足指部の徒手筋力検査法実技
11	徒手筋力検査法による評価法①
12	徒手筋力検査法による評価法②
13	各疾患にみられる徒手筋力検査結果①
14	各疾患にみられる徒手筋力検査結果②
15	各疾患にみられる徒手筋力検査結果③

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑧（総合）					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	単純X線診断法概論
2	単純X線撮影法
3	単純X線像による評価法
4	頸椎疾患の評価法
5	頸椎疾患の評価実技
6	頸椎疾患に対する処置
7	頸椎疾患に対する処置実技
8	肩部疾患の評価法
9	肩部疾患の評価実技
10	肩部疾患に対する処置
11	肩部疾患に対する処置実技
12	肘部疾患の評価法
13	肘部疾患の評価実技
14	肘部疾患に対する処置
15	肘部疾患に対する処置実技

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑨（総合）					担当者名						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
											30	
授業概要	様々な整復法、固定法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。											
成績評価	定期試験および受講態度											
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	手部疾患の評価法
2	手部疾患の評価実技
3	手部疾患に対する処置
4	手部疾患に対する処置実技
5	手指部疾患の評価法
6	手指部疾患の評価実技
7	手指部疾患に対する処置
8	手指部疾患に対する処置実技
9	脊椎疾患の評価法
10	脊椎疾患の評価実技
11	脊椎疾患に対する処置
12	脊椎疾患に対する処置実技
13	股部疾患の評価法
14	股部疾患の評価実技
15	総合演習

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑩（総合）					担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。										
成績評価	定期試験および受講態度										
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	膝部疾患の評価法
2	膝部疾患の評価実技
3	膝部疾患の処置
4	膝部疾患の処置実技
5	足部疾患の評価法
6	足部疾患の評価実技
7	足部疾患の処置
8	足部疾患の処置実技
9	足指部疾患の評価法
10	足指部疾患の評価実技
11	足指部疾患の処置法
12	足指部疾患の処置実技
13	臨床現場で遭遇しやすい疾患の評価法①
14	臨床現場で遭遇しやすい疾患の評価法②
15	総合演習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
				○						
授業科目名	柔整実技7⑪（総合）				担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期 後期
										30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。									
成績評価	定期試験および受講態度									
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	固定材料の種類
2	硬性材料の用い方
3	クラーメル副子の作成法
4	患部にあったクラーメル副子の作成法
5	クラーメル副子の作成①
6	クラーメル副子の作成②
7	クラーメル副子の作成③
8	局所副子の用い方
9	局所副子の作成①
10	局所副子の作成②
11	局所副子の作成③
12	アルフェンスシーネを用いた固定
13	アルフェンスシーネの作成①
14	アルフェンスシーネの作成②
15	総合演習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
				○						
授業科目名	柔整実技7⑫（総合）				担当者名					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期 後期
										30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。									
成績評価	定期試験および受講態度									
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	ギプス固定理論
2	ギプスシャーレの作成法
3	ギプスカッターの使用法
4	ギプスの作成①
5	ギプスの作成②
6	ギプスシャーレの作成①
7	ギプスシャーレの作成②
8	キャストライトによる固定理論
9	キャストライトの作成法
10	キャストライトの作成①
11	キャストライトの作成②
12	いろんな材料を用いた固定理論
13	いろんな材料を用いた固定実技①
14	いろんな材料を用いた固定実技②
15	総合演習

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
			○						
授業科目名	柔整実技7⑬（総合）				担当者名				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期
									30
授業概要	様々な整復法、固定法法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。								
成績評価	定期試験および受講態度								
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	テーピング概論
2	テーピングの種類、テーピング手法の種類
3	テーピングによる固定
4	肩部のテーピング理論
5	肩部のテーピング実技
6	肘部のテーピング理論
7	肘部のテーピング実技
8	手部のテーピング理論
9	手部のテーピング実技
10	手指部のテーピング理論
11	手指部のテーピング実技
12	背部のテーピング理論
13	背部のテーピング実技
14	股部のテーピング理論
15	股部のテーピング実技

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		平成31年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
授業科目名	柔整実技7⑭（総合）					担当者名						
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数			1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
											30	
授業概要	様々な整復法、固定法を習得し現場で多様な症例に対処できるようになることを目的とする。											
成績評価	定期試験および受講態度											
その他	白衣着用。身だしなみを整えておくこと。											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	柔道整復学－実技編 改訂第2版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂
参考図書	柔道整復学-理論編 改訂第6版	（公社）全国柔道整復学校協会	南江堂

回数	授 業 計 画
1	膝部のテーピング理論
2	膝部のテーピング実技
3	足部のテーピング理論
4	足部のテーピング実技
5	足指部のテーピング理論
6	足指部のテーピング実技
7	足底挿板理論①
8	足底挿板理論②
9	“足底挿板の作成”
10	疾患別足底挿板の改良（考え方）
11	疾患別足底挿板の改良（実技）
12	機能的装具理論
13	機能的装具の改良
14	機能的装具の作成
15	“総合演習”

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 平成30年度 柔道整復学科 昼間Ⅰ部					
			○						
授業科目名	臨床実習1			担当者名	田中 満				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期
						45			
授業概要	付属臨床実習施設を用いて、施術所で実際に行われている柔道整復業務を目にするとともに、施術の補助を行いながら実際の柔道整復業務の一部に携わる。								
成績評価	授業態度、知識および技能の習熟状況を総合的に評価。								
その他									

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	ガイダンス、臨床実習について
2	施術所の概要を知る
3	医療安全について
4	物理療法について
5	施術所内の医療機器の取り扱いについて
6	医療面接の概要
7	医療面接の方法
8	医療面接の手順を知る
9	患者さんの介助について
10	患者さんの誘導について
11	施術の順序を知る①
12	施術の順序を知る②
13	臨床で遭遇する症例①
14	臨床で遭遇する症例②

15	臨床で遭遇する症例③
16	施術の実際
17	臨床で遭遇する症例④
18	施術録の記載方法について①
19	施術録の記載方法について②
20	施術録の記載
21	施術録の取り扱いについて
22	検査法や測定法について
23	検査法や測定法の種類
24	検査法や測定法の実際
25	画像診断の概要
26	画像診断の種類を知る
27	画像診断の実際
28	画像診断の手法を学ぶ①
29	画像診断の手法を学ぶ②
30	習熟度確認テスト

昼間Ⅰ部
臨床実習Ⅰ シラバス

臨床実習	学年	単位	時間数
	1	1	45
一般目標	臨床体験、臨床見学を通じて、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を身につける。		
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対して、適切な態度で接する。		
学習内容	大項目	中項目	
	基礎実習	1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける 2) ベットメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 環境準備 患者さんの誘導実施 【体験実習】 患者として施術を受け、グループディスカッションの実施	
	患者さんに対する対応	1) 患者に適切な対応ができる 2) 患者の抱える問題点に共感できる	
	施術録作成・症例検討	1) 施術録の記載項目を理解できる。	
	保険請求	1) 社会保障制度と受領委任払いの説明ができる	
	評価	個人レポート、臨床実習指導者、実習調整者の評価などを総合的に評価する	

昼間Ⅰ部
臨床実習Ⅱ シラバス

臨床実習	学年	単位	時間数
	2	1	45
一般目標	臨床体験、臨床見学を通じて、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を身につける。		
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対して、適切な態度で接する。 4) 付帯業務などの課題が解決できる。		
学習内容	大項目	中項目	
	基礎実習	1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける 2) 医療面接の実施 3) ROM,MMTなどを計測、評価の実施 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5) 治療機器の効果、禁忌の理解 6) ペットメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 環境準備 受付業務 患者さんの誘導実施 【体験実習】 医療面接および所見を記載する。	
	患者さんに対する対応	1) 患者に適切な対応ができる 2) 患者の抱える問題点に共感できる	
	施術録作成・症例検討	1) 施術録の作成 2) 症例検討の実施	
	保険請求	1) 手続きの意義 2) 記載方法の実施	
	評価	個人レポート、臨床実習指導者、実習調整者の評価などを総合的に評価する	

昼間Ⅰ部
臨床実習Ⅲ シラバス

臨床実習	学年	単位	時間数
	2	1	45
一般目標	臨床体験、臨床見学を通じて、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を身につける。		
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対して、適切な態度で接する。 4) 実習指導者に模擬的に行為が実施できる。		
学習内容	大項目	中項目	
	基礎実習	1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける 2) 医療面接の実施 3) ROM,MMTなどを計測、評価の実施 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5) 治療機器の効果、禁忌の理解 6) ペットメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 環境準備 受付業務 患者さんの誘導実施 【体験実習】 臨床実習指導者に対して模擬的に行為を行う。	
	患者さんに対する対応	1) 患者に適切な対応ができる 2) 患者の抱える問題点に共感できる 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。	
	施術録作成・症例検討	1) 施術録の作成 2) 症例検討の実施	
	保険請求	1) 手続きの意義 2) 記載方法の実施	
	評価	個人レポート、臨床実習指導者、実習調整者の評価などを総合的に評価する	

昼間Ⅰ部
臨床実習Ⅳ シラバス

臨床実習	学年	単位	時間数
	3	1	45
一般目標	臨床体験、臨床見学を通じて、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を身につける。		
到達目標	1) 臨床実習において施術所における施術の一連の流れを理解する。 2) 実習施設の業務形態を理解し、スタッフとしての行動ができる。 3) 患者に対して、適切な態度で接する。 4) 指導・監視下のもと施術の介助ができる。		
学習内容	大項目	中項目	
	基礎実習	1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける 2) 医療面接の実施 3) ROM,MMTなどを計測、評価の実施 4) 神経学的検査、脈管検査、評価の実施 5) 治療機器の効果、禁忌の理解 6) ペットメイキング、衛生面への配慮 【見学実習】 環境準備 受付業務 患者さんの誘導実施 【体験実習】 指導・監視下のもと施術の介助を行う。	
	患者さんに対する対応	1) 患者に適切な対応ができる 2) 患者の抱える問題点に共感できる 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。	
	施術録作成・症例検討	1) 施術録の作成 2) 症例検討の実施	
	保険請求	1) 手続きの意義 2) 記載方法の実施	
	評価	個人レポート、臨床実習指導者、実習調整者の評価などを総合的に評価する	